

耐久高等学校定時制

実施日時	令和元年 11月 5日 (火)
参加者	生徒12名、教職員8名、計20名
実施内容	避難訓練、アルファ化米調理実演・試食、マイトイレ作り、心臓マッサージ、AED

ねらい

1. 避難訓練、アルファ化米調理実演・試食、マイトイレづくりを通して災害時の対応を学ぶ。
2. 心臓マッサージ、AEDの使用法を習得する。

主なプログラム

1. 避難訓練
2. アルファ化米調理実演・試食
3. マイトイレ作り
4. 救命講習（心臓マッサージ、AED）

概要

1. 避難訓練
 - ・シェイクアウト訓練（教室）
 - ・停電を想定した状態で4階会議室へ避難
 - ・避難所確認
 - ・「世界津波の日」についての説明
2. アルファ化米調理実演・試食
 - ・職員によるアルファ化米調理実演、試食
 - ・非常食の重要性を説明
3. マイトイレ作り
 - ・新聞紙とペットシートを使った災害用簡易トイレ作り
4. 救命講習
 - ・湯浅広川消防組合の職員による心臓マッサージ、AEDの使用法に関する講習
 - ・学校内のAEDの設置場所を確認

参加者感想文

- ・学校のAEDがどこに設置されているのか知らなかったので良い機会になった。
- ・非常食はあまりおいしくなかったが、被災したときには食料が手に入らないこともあり、文句を言っていないとわかった。災害に備えて、食料を備蓄しておくことが必要だと思った。

成果と課題

【成果】避難訓練については、定時制課程ということもあり、地震による停電を想定し廊下を消灯した状態で行った。地震発生の放送とともにシェイクアウト訓練を行った後、大津波が来ることを想定し、4階会議室へ避難した。避難にかかった時間は3分以内で速やかに行動できた。避難完了後、「世界津波の日」が制定された経緯、今後30年以内に南海トラフ地震が発生する可能性が70パーセント以上であること、東日本大震災では津波が校舎の3階まで到達した事例等を説明し、生徒たちの防災意識を高めた。今回の訓練を契機に、各教室には停電時に自動点灯するライトを設置した。

救命講習については、湯浅広川消防組合より職員を派遣していただき、より実践に近い形で心臓マッサージ、AEDの使用法の訓練を受けることができた。学校内のAEDの設置場所を周知し、いざというときには使わなければならないことを強調した。

【課題】停電を想定して避難訓練を行ったが、18時台では全日製の教室や職員室等に明かりがついており、臨場感が湧きにくかった。より遅い時間に実施するか、「ダーク&ライト体験（電灯を消せば真っ暗になる部屋を作り出口までたどり着かせる体験）」等を行い夜間停電の恐ろしさや、普段から懐中電灯や携帯電話を枕元等に備えておく必要性を伝えられるようにしたい。また、あらかじめ「何分以内に避難するように」等、避難にかかる時間を生徒に意識づけることができなかった。事前に津波が到着するまでの時間を示し、それ以内に避難できるように伝える必要がある。

アルファ化米の調理に関しては、教員による実演では遠くて見えづらいことがわかった。生徒を近くに集めるか、個人やグループで作れるものがよい。また、マイトイレ作りができていない生徒が数名いた。図解をプロジェクターで写したり、グループのリーダーが他の生徒に教える等工夫が必要である。



マイトイレ作り



アルファ化米調理実演



アルファ化米試食



湯浅広川消防組合の方からご指導いただきました！



視覚教材を用いた救命講習